

ナウマン通信



2021年
1月4日発行
第29号

大阪市立我孫子南中学校

明けましておめでとうございます

2021年、新たな年がスタートしました。改めてあけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。皆さんは年末年始をどのように過ごしましたか？有意義な時を過ごすことができたでしょうか？いまだ猛威をふるうコロナの影響でやはり例年とは違う年末年始を過ごしたことと思います。校長先生もほとんどの時間を家で過ごしました。家の掃除を少ししたぐらいで、外に出るのは買い物だけの日々でした。あとはテレビの前でゴロゴロ・・・とても有意義とは言えないような生活でしたが、ゆっくりと過ごすことができました。そんな中でここ数年、お正月に楽しみにしているのが『箱根駅伝』です。今年も2日間、テレビにかじりつ



いていました。ただ、ひたすら走っているだけのスポーツですが、その中に毎年毎年素晴らしいドラマが詰まっています。1本のタスキをつなぐために選手のみならず多くの関係者が心を一つにして、10区間、計217.1Kmを走りぬくのです。今年もたくさんありましたが、やはり最後の2Kmでの逆転劇に驚きと感動がありました。最終10区がスタートした時点では1位と2位の差は3分19秒、これは約1Kmの差が付いていることになり、誰もが勝負は決まったと思ったところからの逆転劇。優勝した大学の監督は「あきらめなければ、何が起きるかわからない」としみじみと語っていました。今まで君たちにも何度も伝えてきましたが、やはり、あきらめない心が大切だということです。それでもう一つ感動したのは、この逆転されて2位になった大学の選手の言った言葉です。この大学はまだまだ実績の乏しい選手が多い中、有力校の主力を相手に渡り合えた理由は何か？と聞かれたときに次のように説明しました。

「『タイムが走るんじゃない。人が走るんだ』『自己記録が劣っていても力を出し切れば勝てるチャンスはある。』それだけの努力はしてきただろう」という監督の言葉が浸透している、と。この言葉からわかるように人間には決して数字だけでは決められない無限の可能性があるということ、そしてここぞというときに力を出しきるための努力を怠らないことだと改めて教えられたような気がします。さあ、大切な3学期がいよいよ始まります。1学期、2学期とつないできたタスキを3学期もしっかりと受け継いでいこう。

